

「花のまち ごぼう」ステップアッププラン

自治体情報 和歌山県御坊市

人口 / 25,551人 標準財政規模 / 6,890百万円

- 担当課** 御坊市産業建設部商工振興課
- 電話番号** 直通 0738-23-5531
- 実施主体** 御坊市・御坊市観光協会・御坊商工会議所・他
- 関連ホームページ** <http://www.gobo-cci.or.jp/dezitarumappu/index.htm>
- 事業期間** 平成21年度から平成23年度まで
- 関係施策分類** ①、③、④

予算関連データ

総事業費：54,864千円

名称	所管	金額(千円)
わかまち元気プロジェクト支援事業	和歌山県	4,812
新農林水産業戦略プロジェクト推進事業	和歌山県・JA	15,559
野菜花き産地活性化事業	和歌山県・JA	5,699
野菜花き産地強化事業	和歌山県・JA	1,728
ふるさと雇用再生特別基金活用事業	厚生労働省	23,934
その他補助金等		3,132

施策のポイント

本市は、全国有数の花の生産地であることから、花きと町並み（寺内町）を核とした観光振興及び花の生産地としてのイメージアップを図るため、「花のまち御坊」として産地強化や販路拡大、また「花」をモチーフにした食・特産品（土産）・観光ツアー開発に取り組んだ。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

スターチスの出荷量日本一を誇る本市は、全国的にも花の一大産地でありながら「花のまち」としての知名度が低く、そのうえ近年は、花の消費や販売価格の低迷により生産農家の所得が減少していることから、スターチスなどの県オリジナル品種苗を安く農家に供給するシステムづくりや流通コストの削減、国内外への販路拡大を図るとともに、「花のまち御坊」のPRを図り、花き・町並みを資源とした地域の活性化につながるような事業の取組を行った。

2. 取組の具体的内容

- (1) 花き生産・流通の低コスト化を図るため、県オリジナル品種を低価格で生産農家に供給するための低温育苗施設の設置や、花き用輸送容器（湿式輸送容器）の改良品開発を行った。
- (2) 「花のまち御坊」の情報発信を行うため、本市で栽培されている花きのブーケを高速のサービスエリアや大阪駅・京都駅などで配布することによるPR活動を行った。
- (3) 花きと町並みを資源とした観光産業の創出として、市内の海の見える幹線道路沿いの遊休農地に花を植栽し、花海道（はなかいどう）としての整備を行ったり、歴史的な町並みが残る寺内町の観光基盤づくりとして地元の語り部支援や御坊ならではの花と町並みを組み合わせた「御坊デジタルマップ」を作成した。
また、花をテーマにした観光商品開発としては、食事メニューの開発や特産品（土産）づくりを行うため、開発協議会を立ち上げ、企画、試食検討をしたうえで、新商品を生み出した。
- (4) 「花と歴史のまち御坊」の観光商品づくりとしては、花、町並み、エネルギーパーク等の市内の観光資源を活用した旅行商品を開発するため、体験型モニターツアー及び旅行エージェント等へのファムツアーを実施した。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

花き生産地と町並みの資源を組み合わせた施策（商品開発等）を講じることによって、「花のまち御坊」としての認知度アップを図り、それが観光客増加などの観光振興につながるとともに地域の活性化を目指した。

4. 現在までの実績・成果

「花のまち御坊」のPRを積極的に実施しながら取組んでいる中で、花をイメージした食・特産品（土産）の開発では、地元食材を用いた「宮子姫花かご弁当」及び花をモチーフにした土産4品を開発し、平成23年4月から発売を開始した。

また、観光ツアーの育成では、寺内町の散策と観光農園での花摘み体験などを巡るファムツアーについて、旅行エージェントやメディア（16名）に対し、直接働きかけを行った後、市内観光地の魅力を探ってもらった。その結果、「このような素晴らしい地域資源が御坊にあるのを知らなかった」などと好感触の印象を持ってもらい、京阪神の雑誌・新聞へ本市の観光が掲載され、本市の魅力の発信とPR効果を発揮した。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

「花」をモチーフとした食・土産の開発では、直接「花」を材料とするのが難しく、どうすれば「花」を感じてもらえるかという点に苦労した。試食を繰り返して、アンケートを取るなどの結果、食については、花の形の籠に地元の旬の食材をふんだんに使い、また土産については、花の形をした和、洋の3品の菓子を開発し、その3品を一つに詰め合わせた商品を3店舗共同で販売することができた。

6. 今後の課題と展開

熊野古道、寺内町散策が人気となり、団体旅行のツアー客増加に伴い、語り部の需要も増加すると思われるが、その人材が少ないため、今後、人材育成が緊急の課題となっている。

これらの施策を実施して、「花のまち御坊」の認知度が向上しつつあるが、これを定着させるため、引き続き、御坊の花のPRや観光客誘致など、さらなるステップアップにつながるような施策を展開していきたい。